

院長就任のご挨拶

院長 土田 英人

平成30年4月1日に医療法人三幸会第二北山病院副院長として入職、7月1日付けで第二北山病院院長に就任しました土田英人です。

これまで18年間の長きにわたり当院院長としてご尽力いただきました。今回は私の自己紹介と抱負を述べさせていただきます。

「研修医時代」

京都市内で生まれ育った私は、どうしても実家を出て独り暮らしがたくて、絶対通えない遠くの大学に行こうと、仙台にある東北大学医学部に入学しました。平成6年に大学を卒業しましたが、脳と心に興味があった私は、そのまま仙台に残って脳神経外科医になるか、京都に戻って精神科医になるか、ぎりぎりまで迷いました。結果として京都府立医科大学附属病院の精神科研修医として京都に戻ってまいりました。北山

「大学院時代」

平成8年4月から、京都府立医科大学大学院医学研究科博士課程に進学しました。最初の2年間は福居顯

二前教授が続けておられた、アルコ

ール・薬物依存症の基礎研究のお手伝いをさせていただきました。具体的には、有機溶剤やアルコール（お酒）に一定期間曝露した動物（主にラットやマウス）の脳内に生じる生化学的な変化を免疫組織化学という手法を使って検索するというものでした。丁度その頃に、私は非常勤医師として当院（第二北山病院）に毎週木曜日に日勤当直のアルバイトに来ておりましたので、今年の4月に副院長として入職した際には、当時の懐かしい顔が沢山おられました。

その後、大学院3年生の秋から、東京の小平市にある国立精神神経センター神経研究所の疾病研究第3部というところに、いわゆる国内留学をいたしました。当時は、後に東京医科歯科大学精神科教授になられた西川徹先生が部長を務めておられ、山本直樹先生（現・東京都立多摩総合医療センター精神科部長）に研究

のいろはから指導していただきました。

研究テーマは、「統合失調症の陰性症状改善のための新規抗精神病薬の開発にかかる研究」という大それたテーマでした。具体的に申し上げますと、興奮性アミノ酸であるグルタミン酸のNMDA型受容体をブロックするPCP（フェンサイクリジン）が、統合失調症様の陽性症状のみならず陰性症状も呈することから、NMDA受容体機能を賦活する方向の物質を探し出して陰性症状改善の治療薬の開発につなげようという発想です。何やら怪しげな物質を一つ見つけて論文を書き、無事に学位（医学博士）をいただきましたが、その後の創業にはまったくつながってないようです。

